

コミュニティ・スクール情報

2021. 11. 29

令和3年11月29日（月）、押切小学校で行われた「第2回こうふく押切っ子協議会」の議事録を下記に掲載しましたのでお読みください。

【学校運営状況】鈴木康喜校長の説明

- 4年間にわたる校舎改修工事が終了し、大変明るく使いやすい校舎になった。関係機関等に感謝したい。
- 魅力ある学校づくり事業にかかわって、「学校が楽しい」と答えてくれる児童が増えてきている。年間を通し、楽しい学校生活になるよう、全職員で、児童の情報を共有し、いじめ等も教育相談をもとに対応していきたい。
- 児童会を中心とした縦割りの活動。スマイルタイムやロング昼休み等で、児童の関わりを大事にしている。
- 教職員の丁寧な指導支援や教育相談、個別相談、保護者対象教育相談に取り組み、課題を解決しながら楽しい学校にしていきたい。
- コロナ禍における学校行事運営については、相撲大会は中止したが、土俵入りや弓取り式を実施。保護者の方も見に来てくれたりしたことで、発表した子にとっては自信がもてたようだ。
- 修学旅行は、上山に宿泊し、高島町や米沢市を見学した。将棋のコマづくりやリナワールドを体験し楽しめたようだ。
- 授業参観は、分散しての開催を行っている。
- 学力について、NRTテストの結果や全国学力学習状況調査の結果をみても全国平均を上回っている。力は十分ついてきている。
- 生徒指導面については、いじめのアンケート6月調査では28件で解消済み。11月調査認知件数25件であった。現在、聞き取りと指導をし見守っている状況である。
- 健康指導面では、欠席が少なく安定した生活につながっている。頭痛、腹痛など不安愁訴による保健室への来室が多いようなので、十分に話を聞き対応している。
- 生活リズムについて、朝食などバランスよく食べることがだいぶ定着してきた。睡眠時間が短くなってきていること、ゲーム時間が長くなってきていることは気になっている。保護者の方との連携を取っていきたい。

【学校運営状況への質問等】

- ランチルームの再開についてどう考えているか？先輩との関わりなどからしても大変意義のある時間に思っている。
(校長) 現在は、文科省のガイドライン（コロナ禍での給食指導）に沿って行っている。感染の減少で早く普段の生活にという声もあるし、まだ早いという考えもある。食事の時は、マスクをとることにもなるので慎重に考えている。今年度中は無理かもしれない。
- 「学校が楽しい」について自己肯定感が高ければ「楽しい」低ければ「楽しくない」となる。学習が理解できれば楽しいだろうし、友だちとの関わりができていれば楽しく感じると思うが
(校長) 数字だけにこだわらないで、子どもの様子を職員がアンテナを高く観察し、子どもによ

りそって生活したい。教育相談やいじめアンケートを通して悩みを解決したり、良好な関係を築いたりできるようにしたい。勉強がわかることも「学校が楽しい」につながる。支援員の補助や個別指導も取り入れながら支援をしていきたい。関わりのなかでの心の変化も見逃さないように職員で情報交換をしながら自己肯定感の高まるよう支援していきたい。

○中高一貫校の開校が近づいてきているが、学校での子どもや保護者の変化などはどうか。

(校長) 該当する学年への説明会はあったが、その後、入学試験等の詳しいことは何も学校にきていない。教育委員会にも詳しい内容など寄せられていない。普段の授業を充実するようにすすめている。

【 熟議 子どもに地域（町）のよさを伝えるには 】

学校の取り組み（校長先生から）

- ・第四次山形県総合発展計画には、少子高齢化の進行による人口減少の加速、グローバル化の拡大と深化、ITCの飛躍的発展、災害への対応等が課題とされている。
- ・次代を担い地域を支える人材の育成と確保が求められている。そのために、①学校教育の充実②生涯を通した多様な学びの機会の充実③若者の定着と回帰の促進④国内外の様々な人材の呼び込み等があげられている。
- ・押切小で何ができるかといえば、子どもに地域のよさを伝えることあるといえる。その点で考えられるのが総合的な学習の時間の充実であり、ふるさととの自然、施設、文化、産業に関心を持ち、意欲的に活動に取り組めるようにすることである。また、校外学習や日常の地域のみなさんとのふれあいによって、温かい関わりを大切にしていきたい。
- ・地域のみなさんとのふれあいや総合的な学習の時間の充実により、「思いやりや助け合いの心を持ち、進んで人々と交流する子ども」、「自分の想いや考えを豊かに表現し、わかりやすく伝えようとする子ども」をめざしたい。
- ・総合的な学習での体験学習だけでなく、日常の地域とのふれあいを通して、ふるさとへの誇りとふるさとを愛する気持ちを育てていきたい。

委員の方よりのご意見

- ・ふるさと納税返礼品を納めている町内の出品者との交流をお勧めしたい。三川町の産業面での理解にもつながると思う。
- ・青果市場の見学、車検場の見学も良い体験につながると思う。
- ・人との関わり方として、認知症について知る機会を子どもたちにもつくってもらいたい。
(コロナの関係で、お年寄りとの交流は現在ストップしている状況。再開できればよい。体験交流前の学習機会にしてもよい)
- ・各学年がそれぞれよい活動をしている。経験したことを他学年にシェアできたら良い。
世界に向けて押切のよさを発信する6年生が交流している様子を全校に紹介するなどもいい。
- ・地域の方への感謝を伝える機会をもつのはよかった。三川病院へのお手紙や春の見守り隊へのお手紙など。
- ・個性に合わせた指導で、子どもたちの素直さを伸ばしてほしい。
- ・「父ちゃん倶楽部」の活性化は学校、地域の課題解決の力になる。現在、衰退しているが今後の活動に期待したい。

- ・体験学習での興味を継続するために、学習内容に工夫をもつことも大事。
(各学年の学習内容にテーマごとに関わりを持たせて進めている)
- ・町内会単位での行事を積極的に進めていくことで、子どもの地域理解や地域との関わりは深くなる。
- ・地域の方から子どもたちとの関わりを考えていかなければならない。子どもをお客様扱いせず対等に子どもの考えを聞くことが大事。
- ・150周年事業を控えているが、押切小学校150周年をどのように迎えるか、子どもたちの学びの機会として考えることもよいと感じる。



授業通覧



協議会

この日の給食は6年生が自分で作ったお弁当の日でした。栄養のバランスもバッチリ。

